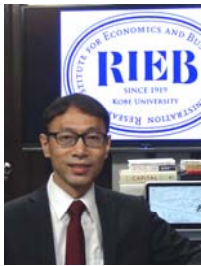


平成27年度(基盤研究(S)) 研究概要(採択時)

【基盤研究(S)】

人文社会系(社会科学)



研究課題名 包括的な金融・財政政策のリスクマネジメント：
理論・実証・シミュレーション

神戸大学・経済経営研究所・教授 かみひがし たかし
上東 貴志

研究課題番号：15H05729 研究者番号：30324908

研究分野：経済学

キーワード：経済政策論

【研究の背景・目的】

日本の政府債務は膨張の一途を辿っているが、財政破綻の可能性は10年以上前から叫ばれており、近い将来に財政破綻が起こるか否かは意見の分かれるところである。現時点では、日本銀行が継続・拡大している広範な量的・質的緩和を背景に、金利は歴史的な低水準にあり、記録的な円安・株高傾向が続いている。

歴史上、過度の金融緩和はバブルを生み出し、バブル崩壊は金融危機の引き金となっている。さらに、金融危機が拡大し財政破綻に至るケースは多い。

本研究は、以下の3つの手法の開発を目指す。

①バブル崩壊・金融危機・財政破綻のリスクを事前に推定する手法

②これらのリスクに適切に反応する包括的かつ最適な金融・財政政策を導出する手法

③多層的金融ネットワーク・モデルによる、金融・財政危機発生後の危機管理の手法

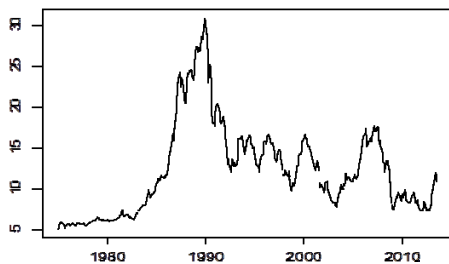


図1 TOPIX(東証株価指数)1975-2013

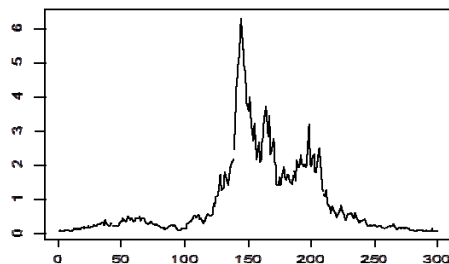


図2 Kamihigashi(2011)に基づくバブルのシミュレーション

【研究の方法】

上記の3つの手法を開発するために、本研究では、研究代表者のこれまでの研究成果等(図2参照)に

基づき、理論・実証・シミュレーションの3つのアプローチを融合的に用いる。計算量が膨大になるシミュレーションに基づく手法を駆使するために、本研究では最新のスパコン技術を活用する予定である。研究組織全体としての研究スキームは、図3のとおりである。

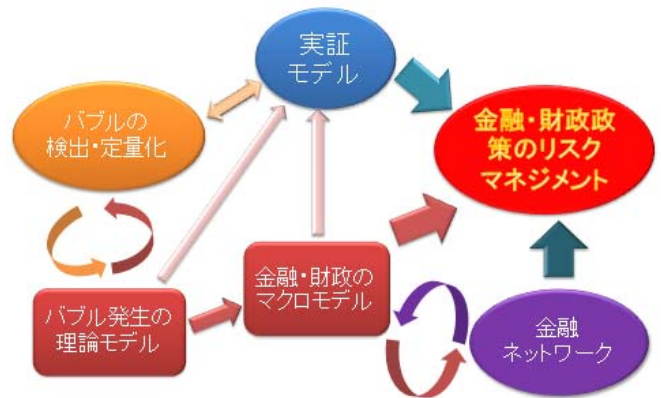


図3 研究スキーム

【期待される成果と意義】

期待される成果は、上記①～③の手法が基礎研究のレベルで開発されることである。日本および世界の経済情勢に鑑み、その意義は大きいと考えられる。

【当該研究課題と関連の深い論文・著書】

- ・ T. Kamihigashi, "Recurrent Bubbles," Japanese Economic Review 62, 27-62, 2011.
- ・ T. Kamihigashi and J. Stachurski, "Stochastic Stability in Monotone Economies," Theoretical Economics 9, 383-407, 2014.
- ・ T. Kamihigashi and J. Stachurski, "Perfect Simulation for Models of Industry Dynamics," Journal of Mathematical Economics 56, 9-14, 2015.

【研究期間と研究経費】

平成27年度-31年度 141,400千円

【ホームページ等】

<http://www.rieb.kobe-u.ac.jp/project/risk/index.html>